

講義レジュメ

講 師 秋山幸也
期 日 令和元年12月12日

内容・テーマ

資料収集から整理、展示まで ボランティアと作る博物館

相模原市立博物館は、地域の総合博物館として平成7（1995）年11月にオープンした。開館当初はボランティア組織を持たずに活動していたが、各専門分野の講座を実施したり、博物館の調査研究プロジェクトに参画する市民とのつながりが強くなったりしていくうちに、事実上のボランティアグループが複数誕生していった。

神奈川県では1979年から県内の博物館や植物園と市民が協力して、『神奈川県植物誌』をつくるプロジェクトが進行している（1988、2001、2018年版をこれまでに刊行）。相模原市立博物館も開館当初から相模原および周辺地域の調査拠点と標本集積を担ってきた。こうして博物館に集う植物好きな市民を中心に、相模原植物調査会が誕生した。

調査会と銘打っているが、実際には博物館の講座やワークショップの補助、そして展示製作にも深く関わっている。ワークショップや展示に使用する植物素材の収集は、専門的な知識と技術を生かして最適なタイミングでコンディションの良いものを集めてきてくれる。また、中学生の職業体験では、孫ほどの年代の子を相手にするためか、とても和やかに会話をしながら技術指導をしてくれる。現在は収蔵庫において植物標本の配置換え作業を主体的に行っており、博物館の専門的業務のすべてに関わる重要な役割を担っている。

植物以外の分野でも、歴史・民俗資料の収集整理、登録から展示まで行うグループや、主に縄文土器に関する専門研究を行う考古分野のグループ、天体観測や天文写真の撮影を行う天文分野のグループなど、分野ごとに9つのグループが活動している。さらに、こうした専門分野にかかわらず、博物館の様々なイベントの補助や企画運営に携わるボランティアグループとして「市民学芸員」が組織されている。これは、数年おきに開講される養成講座を経て登録制で活動するグループで、毎月実施する星空観望会の運営補助や、年に1回実施するクイズラリー、秋から冬に開催する学習資料展（収蔵品展）を主体的に企画、運営している。

相模原市立博物館では、このような市民の活動が毎日のように行われており、その活動成果を発表する場として毎年秋に「学びの収穫祭」を実施している。このイベントでは、各ボランティアグループの他に、学芸員が活動に関わる学校の部活動の発表や、アルバイトの大学生、大学院生の研究成果なども発表している。幅広い年代から多岐にわたる分野の発表を行うことにより、発表者が相互に活動のモチベーションを保つ結果につながり、さらに博物館も市民の活躍を広くPRできる場となっている。